

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム 菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1 (電話) 058-379-6205		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月3日	評価確定日	平成20年8月11日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い幹線道路沿いに、菜の花色したホームが色鮮やかにある。「家での生活の継続」を理念の中心に挙げ、利用者1人ひとりの意向、自由を尊重し、その方のペースで暮らすことができるよう目指し支援している。日常の中での生活を継続することがリハビリと考え、歩く力、家庭内の用事をする力、話すことなどの維持・継続を大切にしている。できるだけ自分で、できないところを支援するため毎日の職員の話し合いで情報の共有を図っている。入居時車椅子利用の利用者が現在シルバーカーを押したり、伝い歩きができるようになった実績をあげている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 地域との交流や災害対応が課題であった。地域とは日常の外出時の挨拶や自治会加入、地域住民であった利用者の隣人がボランティアでホームを訪問される等の交流が広がり、取り組みの効果があり、今後も継続が期待される。防災訓練は夜間の想定で行われ、利用者の避難誘導を行った。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>管理者の交代後1年が経緯し、1年の振り返りとした。自己評価票は、職員の意見を聞き管理者が記載し、再度職員と確認する作業が行われた。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>4ヶ月に1回の開催であったが、人事異動、ホーム内行事、ヒヤリハットの事例と対応の報告、地域との交流等話し合った。外部評価の結果を運営推進会議に資料を配布し、課題について話し合う予定がある。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>家族と対話することを大切にする取り組みを行っており、家族からの苦情や意見はしっかり受け止め、管理者や法人担当で検討、家族へ説明対応し、その後のサービス提供へ反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>散歩や地域スーパーでの買い物を通し、挨拶を交わし交流を図っている。ホームが自治会に加入したり、運営推進会議に自治会役員が参加することで地域との交流が具体的になってきている。利用者の体調等のタイミングで行事参加も思うにまかせられないが、できるだけ機会をつくり支援したいとしている。</p>
重点項目④	

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 1 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 3 人, 非常勤 14 人, 常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有(退去時に修繕費を差し引いた額を返却)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 1 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	59 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新鵜沼ヶクリニック、東海中央病院、大野歯科
---------	-----------------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは施設ではなく「家での生活の継続」を理念の中心に、家としての生活の場、家族のように、個別性を活かし、残存能力にも配慮した暮らしをホームがある地域の中で展開していく支援を目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日職員のみで行なう15時ミーティングや、毎月1回の管理者を含めた全職員での会議において、理念の実践、実践困難な利用者について検討する取り組みを継続している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の散歩やスーパーへ買い物に出かけ、挨拶を交わしたり、ホームの畑で収穫した野菜をあげたり、反対にもらったりと付き合いがある。自治会に加入しており、広報等から情報を得、地域の夏祭り等にも参加していきたい意向がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者交代からの1年で、職員の意見を聞き、管理者が記載、提供してきた介護サービスを振り返り、記載後に再度全職員で確認した。外部評価の結果は、運営推進会議で資料を配布して課題について検討し、運営に活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会長、自治会長、民生委員、包括支援センターのケアマネジャー、法人代表、ホームの管理者とケアマネジャーをメンバーとし、土曜の午後に開催し、ホームの行事、利用者状況、ヒヤリハット、地域の利用者割合や予約状況の報告や課題の検討を行っている。	○	外部評価の結果報告を行ったりしているが、開催が4ヶ月に1回と開催回数が少ないことや市の参加が年1回であり、行政の参加や開催回数の増加に向けての取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人担当者が、市との関係作りの中心となっており、市職員からの情報収集や伝達をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「菜の花便り」に、認知症高齢者の具体的な接し方と実践、ホーム内行事や利用者の様子、次月の予定、管理者のコメント等を載せ、毎月家族に郵送する。金銭管理困難な利用者が多いことから立替払いとし、家族には明細を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との対話を大切に考え、訪問面会時には、お茶を出し、ゆっくりと話ができるよう心がけている。家族からの苦情や意見を傾聴し管理者に報告し、対応を検討し、管理者から家族へ説明する体制がとれており、サービスの質の改善に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が利用者の全てを把握できるように3ヶ月ごとに2人程度の職員がユニット間での異動を行っている。2つのユニットは、回廊で職員も利用者も自由に行き来できるため利用者へのダメージは見られない。	○	ユニット入り口に職員の顔写真があるが、家族への周知を図るためにも、職員は対応にあたるときに自分の名前を知らせる等の工夫があると良い。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で毎月1回、糖尿病等の疾患、福祉用具の適切な使用法、権利擁護や虐待等講の研修を行っている。また、外部研修にも勤務を調整し参加しやすくしている。職員の資格取得も積極的に支援しており、訪問日も、地域の保健センターで行われているリハビリ研修に職員が参加していた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の交流会や勉強会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスを利用する前に利用者の気持ちや家族の思いを十分に把握し、入居後まもなくで自宅へ返りたい気持ちの強い人には、ついて外出したりしている。入居開始の1~3ヶ月は職員や他の利用者との関係づくりに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくりや洗濯を一緒に行い、利用者から、料理の味付けを教わったり、漬物の漬け方を教えてもらったりしながら利用者と共に生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩、畑の作業、家事の手伝い、掃除、風呂の入り方、食事の時間等、本人の希望や意向を本人や家族の情報から把握している。また、暮らしの中で発見した利用者の好みなど職員間で情報を共有し、できるだけ本人流を取り入れるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常の様子や面会時に得た家族の意見、職員の把握した情報等、毎日のミーティングや月1回の会議等で出された課題を参考に計画を作成している。	○	家族からの意見の収集は面会時を大切に、随時の電話連絡も行っているが少ない。家族からの意見や希望は、介護計画に反映し、本人が暮らしやすくするためであることを日常から伝え、認識してもらう取り組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの定期的な見直しと体調や状況の変化による随時の見直しを行っている。重度化に向かうことが予測された利用者に対しては、家族や医師との話し合いを密にし、随時の見直しで支援している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス利用者で1人暮らしの人に、ホームを夜間不安時の駆け込み場所として提供している。ホームの浴槽では入浴が困難になった場合にデイサービスの浴槽を利用し、リハビリ運動にも参加できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人医療機関の医師をかかりつけ医としている利用者は、受診時間や順番の調整ができ、病院まで通院介助している。本人や家族の希望する医療機関には原則家族の介助であるが、要望があれば職員が支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの体制を整えるため、医療機関からの情報を得て、本人・家族の意向を確認し、医療機関との連携の取り決め、本人や家族に説明し同意を得る等の方針や体制がある。医師や訪問看護の連携も良く、家族の希望で看取りの時まで居室で宿泊し付き添った場合もあり、できる限りの支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	排泄誘導はプライバシーに配慮して対応している。個人記録の保管場所は整理された棚や鍵のかかる場所に保管しているが、記録する場所がホーム訪問者等が通る場所で取り扱われている。	○	事務所が離れているためか、個人の記録を利用者のいる場所で行っている。外来者も近くを通るため、記録方法、記録後の書類の取り扱いを見直し、一時的でも保管をすすめる等取り決められたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者や職員は、大まかな日程をたてているが、本人のその日の体調や状況に合わせリズムを組み立て、職員間で情報を共有し、本人のペースを守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けを共にする利用者があるが、気分や体調によっては様子を見ながら参加を無理強いせず、別の機会に誘っている。誕生会には手作りのケーキを、行楽にはおかずやお握りを、利用者と共に作り楽しく食べている。	○	調理は職員が主に行っており、食べやすさを考え、調理方法を工夫しているが、職員により差がある。実際の食事場面を通して職員間で共有されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3~4回、午後4時ごろから入れるよう準備し、支援しており、希望や必要によっては毎日の入浴もできる。介助者を拒む人には、浴室の外から声をかけ、安全に配慮している。浴槽のまたぎが困難な場合には、併設デイサービスの機械浴の利用が希望できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会のケーキや毎月の行事での昔からの食べ物作り、ホームの畑で作った野菜の加工等季節にあった楽しみごとを共に行い、季節感を楽しんでいる。季節の花見も法人の車を出して出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	在宅酸素を使っている利用者もいるため、全員とはいかないが、できるだけ戸外に出る日常を心がけている。散歩、スーパーへの買い物、喫茶店等利用者の希望を取り入れた職員の支援体制を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路から入ると併設デイサービスとの共通の駐車場があり、玄関ポーチがある。建物は開放的で一般家庭と同じ施錠基準としている。家族からも面会に何時訪れても気兼ねなく訪問できるとの声もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は年2回実施しており、前回は消防署の指導の下、夜勤帯を想定し、非常口を使っての避難誘導を利用者と共に行った。次回は秋の予定で、車椅子利用者や担架での搬送方法を検討する計画がある。職員は、消火器の保管場所、使用法を把握している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	これまで併設のデイサービスと同じ厨房で調理していたが、現在はホームの各ユニットの台所で行っている。献立表をデイサービスの栄養士に見せ、栄養バランス等相談している。水分摂取については配慮し、常に飲めるよう準備してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	菜の花色の建物の外観と、コの字型に居室が配置された中庭には芝生が敷き詰められ、目にも優しい配色である。洗濯物干し台やガーデンテーブルがある。コの字型の廊下は広く手すりは無いが、管理者はできるだけ自分で歩くことを支援したいとし、職員は見守り、付き添う等配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンスや引き出し、使い慣れたベッド、テレビ等の搬入を家族に依頼し、個性のある居室となっている。前利用者が置いていったダンス等も活用し、利用者の便宜も図っている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。